

第79期報告書

(平成20年4月1日から平成21年3月31日まで)

Speciality
Chemical
Partner

荒川化学工業株式会社



代表取締役社長 末村 長弘

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。ここに、第79期報告書(平成20年4月1日から平成21年3月31日まで)をお届けするにあたりまして、一言ご挨拶申し上げます。

当期の国内経済は、第3四半期以降、世界的な金融危機および世界経済の急激な下降などの影響を大きく受け、企業収益が極めて大幅に減少し、個人消費も弱まるなど、景気は急減速しました。また、米国および欧州経済が後退し、中国をはじめとするアジア主要国の景気も減速するなど、世界経済は急速に深刻化しました。

当社グループにおきましては、製品価格の改定、主力製品のシェア拡大、新規用途開発による高付加価値化、生産プロセスの合理化などによる製品コストの削減に努めてまいりました。また、水系樹脂、光硬化型樹脂、超淡色ロジンなどの環境に配慮した製品の拡販、精密部品洗浄システムや機能性ファインケミカル製品などの電子材料関連分野での販売を強化し、さらに有機・無機ハイブリッド樹脂、クリームはんだの拡大を推進してまいりました。海外におきましては、製品の拡販、中国を中心としたアジア地域の市場開拓を進めてまいりました。しかしながら、当社グループを取り巻く事業環境の悪化が深刻さを増し、11月以降、需要が大きく減少しました。各種コスト削減に鋭意取り組みましたが、急激な需要減少を補うには至りませんでした。

その結果、当期の売上高は599億59百万円(前期比9.4%減)、営業利益は11億17百万円(同63.1%減)、経常利益は12億91百万円(同59.9%減)、当期純利益は6億57百万円(同63.0%減)となりました。

なお、期末の配当金は、業績の状況も勘案して、1株当たり10円とさせていただきます。これにより年間配当金は22円50銭となりました。

第2次中期5ヵ年経営計画 キャッチフレーズ
PINE DASH 1000

「PINE」 松の木、当社を代表する原料であるロジンをイメージ、本業重視を継続する
Proactive Innovation for New Era
(新しい時代へ、新機軸の先取り)

「DASH」 **D**ynamic **A**ction for **S**hining **H**istory
(躍動、輝ける未来のために)

「1000」 当社創業140周年となる2016年度には、企業成長のひとつのベンチマークである売上高1,000億円を超える姿でありたい

荒川化学グループにおきましては、さらなる発展を目指して、平成20年4月より第2次中期5ヵ年経営計画をスタートしております。この計画におきましては、4つの基本方針を掲げております。

1. 基盤事業(製紙用薬品事業・化成品事業)のさらなる拡大
2. 伸長事業(機能材料事業・光電子材料事業)の拡大
3. 新規事業・新技術の創生
4. 経営・事業基盤の整備と強化

この基本方針に基づき、基盤事業におきましては、紙力効果と濾水・歩留まり効果を併せ持つ新たな製紙用薬品の「ポリテンション」を開発し、上市いたしました。また、主力製品の生産プロセス改善によるコスト削減を図りました。さらに、中国に工業用樹脂の生産子会社である広西梧州荒川化学工

業有限公司を設立し、平成22年の稼働へ向けた準備を進めております。

伸長事業におきましては、光硬化型樹脂の用途開発および廃液量を大幅に低減できる油水分離型精密部品洗浄剤の開発など、拡大へ向けた施策を実行しております。

また、サプライチェーンマネジメント体制構築の一環として、国内7工場の生産計画立案、原料発注を一元管理できる統合生産計画および生産管理システムを構築し、業務の効率化を図りました。

さらに、平成21年4月1日付にて組織改定をおこない、国際事業部を発展的に解消し、製紙薬品事業部と化成品事業部内に国際部を新設したことに加え、海外関係会社を統轄する国際統轄部を新設するなど、グローバル化推進による事業拡大を効率的に実行できる体制としました。

先行きの経済状況は、米国および欧州経済の後退長期化や、中国経済の成長率鈍化およびその他のアジア主要国経済の後退が予想され、国内経済も当面悪化が続くとみられるなど、よりいっそう下振れリスクが高い状況にあります。

当社グループにおきましても、需要の減少など、事業環境は当面極めて厳しい状況が続くと想定されますが、平成20年4月よりスタートしております第2次中期5ヵ年経営計画に掲げた基本方針のもと、さらなる各種コスト削減に努めるとともに、各事業の拡大による持続的な発展を目指してまいります。

今年は、当社が証券取引所に上場して10年の節目を迎えます。株主の皆様におかれましては、今後ともより一層のご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

株主の皆様へ…………… 1・2

What is ROSIN?
ロジンとチューインガムの
“ふくよかでまるやか”な関係…………… 3・4

事業の概況…………… 5・6

連結財務諸表…………… 7

個別財務諸表…………… 8

Information
高压化学工業は、創業50周年を…………… 9
迎えました

会社概要…………… 10

ロジンとチューインガムの “ふくよかでまるやか”な関係

チューインガムは私たちの暮らしのあらゆるシーンに登場しています。ドライブ中の眠気ざまし、タバコを吸い過ぎたり臭いの強いものを食べた後、気分をリフレッシュさせたいとき…。そして最近では、歯磨きの代用や積極的なキシリトールの摂取のために、その機能を謳ったガムを噛む人もいます。

チューインガムは、弾力性のあるガムベースという素材に甘味料や香料を加えて作られます。ガムベースの原料にはロジンが含まれています。

チューインガムの豆知識

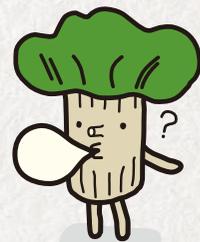
噛む効用は？

ガムは1枚で550回も噛んでいます。噛むと、

- ① 消化を助ける
- ② 歯ぐきとあごの骨を丈夫にする
- ③ 唾液の分泌を促す
- ④ 脳を活性化する

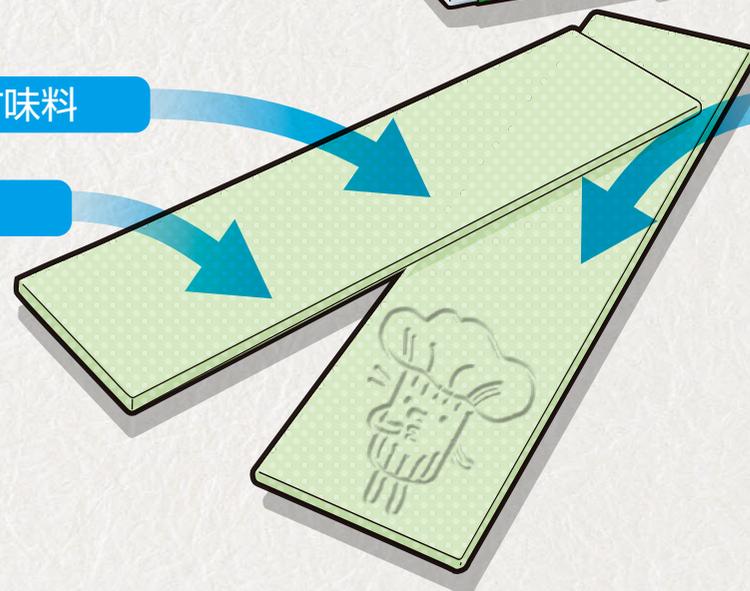
というような効用があります。

(注) 日本チューインガム協会の「噛む健康」より



甘味料

香料



ガムベース

チューインガムは、噛んだときにペチャっとなってしまふようではダメで、ふくよかで、まるやかな噛み心地、はね返ってくるような弾力性が求められます。

そこで、ロジンの登場！ガムベースにはロジンが含まれています。このロジンが、ガムの伸びをよくし、ふくよかで、まるやかな噛み心地をつくります。特に風船ガムには、膨らませた時、伸びをよくするよう、多くのロジンが配合されています。



ロジン



荒川化学はロジンと歩んで 130余年

荒川化学は、明治9年の創業以来、130余年におよぶ永きにわたり「ロジン」を原料とするパインケミカルズ（松脂関連化学製品）分野のパイオニアとして地位を確立してまいりました。例えば、紙のにじみ止め薬品、印刷インキ用樹脂、粘着・接着剤用樹脂などを開発し、日本の産業の発展に大きく貢献してまいりました。

これからもロジンとともに 社会貢献

地球環境への関心が社会で高まる中、荒川化学は、ロジンという自然の恵みを生かした事業をおこなう企業としての社会的責任も大きくなっていると考えております。そのため、地球環境に優しい製品の研究や開発に引き続き取り組んでまいります。併せて、お客様の多様なご要望にお応えできる生産・販売体制のいっそうの充実に注力してまいります。

製紙用薬品事業



国内製紙業界は、大幅な生産調整がおこなわれるなど、極めて低調に推移しました。また、中国製紙業界においても、紙の生産は急減速しました。

このような環境のもと、当事業におきまして

は、国内外での大幅な需要減少により、売上が低調に推移し、減収減益となりました。

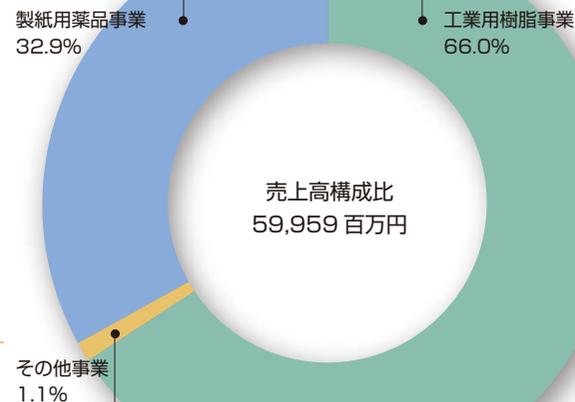
その結果、売上高は197億37百万円（前期比14.3%減）、営業利益は3億96百万円（同69.1%減）となりました。

その他事業



洗浄機械の売上が減少し、減収減益となりました。

その結果、売上高は6億71百万円（前期比5.7%減）、営業利益は42百万円（同39.2%減）となりました。



工業用樹脂事業

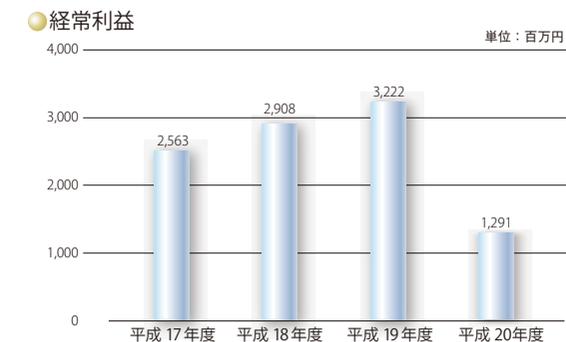
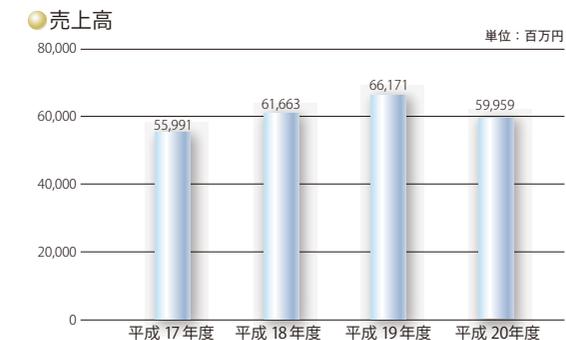


国内の印刷インキ、塗料、粘着・接着剤業界および電子工業業界は、大幅に需要が減少し、極めて低調に推移しました。

このような環境のもと、当事業におきましては、印刷インキ用樹脂、粘着・接着剤用樹脂、精密部品洗浄剤、電子材料用配合製品および機能性ファインケミカル製品などの売上が大幅に減少し、海外子会社の売上也低調に推移しました。

一方、堅調を維持していた光硬化型樹脂の需要も11月以降、急激に減少しましたが、用途の拡大により、通期では売上が増加しました。全体では、国内外の大幅な需要減少により、減収減益となりました。

その結果、売上高は395億50百万円（前期比6.8%減）、営業利益は6億78百万円（同59.6%減）となりました。



連結財務諸表

連結貸借対照表

科目	前期 (20.3.31現在)	当期 (21.3.31現在)
[資産の部]		
流動資産	39,977	36,563
現金及び預金	3,981	6,928
受取手形及び売掛金	24,341	17,906
たな卸資産	10,613	10,675
その他	1,157	1,161
貸倒引当金	△ 116	△ 107
固定資産	24,821	21,968
有形固定資産	18,799	17,686
建物及び構築物	6,954	6,465
機械装置及び運搬具	5,519	4,644
土地	5,235	5,270
その他	1,089	1,305
無形固定資産	667	460
投資その他の資産	5,354	3,821
投資有価証券	4,678	2,935
その他	688	894
貸倒引当金	△ 11	△ 8
資産合計	64,799	58,531

連結損益計算書

科目	前期 (19.4.1から20.3.31まで)	当期 (20.4.1から21.3.31まで)
売上高	66,171	59,959
売上原価	52,921	48,585
売上総利益	13,250	11,374
販売費及び一般管理費	10,218	10,257
営業利益	3,031	1,117
営業外収益	596	567
営業外費用	404	392
経常利益	3,222	1,291
特別利益	6	310
特別損失	161	319
税金等調整前当期純利益	3,068	1,282
法人税、住民税及び事業税	1,129	498
法人税等調整額	94	156
少数株主利益	68	△ 29
当期純利益	1,775	657

(単位：百万円)

科目	前期 (20.3.31現在)	当期 (21.3.31現在)
[負債の部]		
流動負債	24,545	18,539
支払手形及び買掛金	12,171	7,964
短期借入金	7,601	7,658
その他	4,772	2,916
固定負債	3,234	4,755
長期借入金	673	2,489
退職給付引当金	2,015	2,039
その他	544	226
負債合計	27,779	23,294
[純資産の部]		
株主資本	34,445	34,589
資本金	3,128	3,128
資本剰余金	3,350	3,350
利益剰余金	27,977	28,121
自己株式	△ 10	△ 10
評価・換算差額等	1,193	△ 440
その他有価証券評価差額金	926	72
為替換算調整勘定	266	△ 513
少数株主持分	1,380	1,088
純資産合計	37,019	35,237
負債純資産合計	64,799	58,531

連結株主資本等変動計算書

(単位：百万円)

科目	前期 (19.4.1から20.3.31まで)	当期 (20.4.1から21.3.31まで)
純資産合計		
前期末残高	37,062	37,019
当期変動額		
剰余金の配当	△ 523	△ 513
当期純利益	1,775	657
自己株式の取得	△ 1	△ 0
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	△ 1,294	△ 1,925
当期変動額合計	△ 43	△ 1,782
当期末残高	37,019	35,237

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科目	前期 (19.4.1から20.3.31まで)	当期 (20.4.1から21.3.31まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,727	3,261
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 2,006	△ 1,858
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 2,183	1,645
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 22	△ 146
現金及び現金同等物の増加額(△は減少額)	1,514	2,901
現金及び現金同等物の期首残高	2,396	3,911
現金及び現金同等物の期末残高	3,911	6,812

個別財務諸表

貸借対照表

科目	前期 (20.3.31現在)	当期 (21.3.31現在)
[資産の部]		
流動資産	31,907	29,805
現金及び預金	2,023	5,012
受取手形	1,452	940
売掛金	19,578	14,607
たな卸資産	6,860	7,243
その他	2,082	2,090
貸倒引当金	△ 90	△ 90
固定資産	23,130	21,265
有形固定資産	12,101	11,907
建物	3,243	3,170
機械装置	2,890	2,508
土地	4,578	4,615
その他	1,388	1,612
無形固定資産	333	272
投資その他の資産	10,696	9,085
投資有価証券	4,257	2,628
その他	6,447	6,465
貸倒引当金	△ 8	△ 8
資産合計	55,038	51,070

損益計算書

(単位：百万円)

科目	前期 (19.4.1から20.3.31まで)	当期 (20.4.1から21.3.31まで)
売上高	54,410	49,850
売上原価	45,147	41,398
売上総利益	9,263	8,451
販売費及び一般管理費	7,828	7,865
営業利益	1,434	586
営業外収益	1,181	973
営業外費用	182	94
経常利益	2,433	1,465
特別利益	1	286
特別損失	65	769
税引前当期純利益	2,369	982
法人税、住民税及び事業税	730	310
法人税等調整額	68	△ 22
当期純利益	1,571	695

(単位：百万円)

科目	前期 (20.3.31現在)	当期 (21.3.31現在)
[負債の部]		
流動負債	19,206	14,213
支払手形及び買掛金	2,144	1,490
買掛金	8,087	5,160
短期借入金	5,300	5,000
1年以内返済予定長期借入金	233	233
その他	3,441	2,328
固定負債	2,572	4,260
長期借入金	363	2,330
退職給付引当金	1,682	1,724
その他	526	206
負債合計	21,778	18,474
[純資産の部]		
株主資本	32,326	32,507
資本金	3,128	3,128
資本剰余金	3,350	3,350
利益剰余金	25,858	26,040
自己株式	△ 10	△ 10
評価・換算差額等	932	87
その他有価証券評価差額金	932	87
純資産合計	33,259	32,595
負債純資産合計	55,038	51,070

株主資本等変動計算書

(単位：百万円)

科目	前期 (19.4.1から20.3.31まで)	当期 (20.4.1から21.3.31まで)
純資産合計		
前期末残高	33,220	33,259
当期変動額		
剰余金の配当	△ 523	△ 513
当期純利益	1,571	695
自己株式の取得	△ 1	△ 0
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	△ 1,007	△ 845
当期変動額合計	39	△ 663
当期末残高	33,259	32,595

高圧化学工業は、 創業50周年を迎えました

荒川化学グループの高圧化学工業は、高圧製造設備や最先端技術に求められる高度な品質管理に対応した製造設備を有しており、ファインケミカル製品（医薬品、香料、電子材料などの中間体）などの各種化合物を製造しております。

高圧化学工業のマネジメントシステム

高圧化学工業は環境、安全衛生、品質の3つのマネジメントシステムの運用により、環境保全、安全衛生確保、品質つくりこみに努めています。

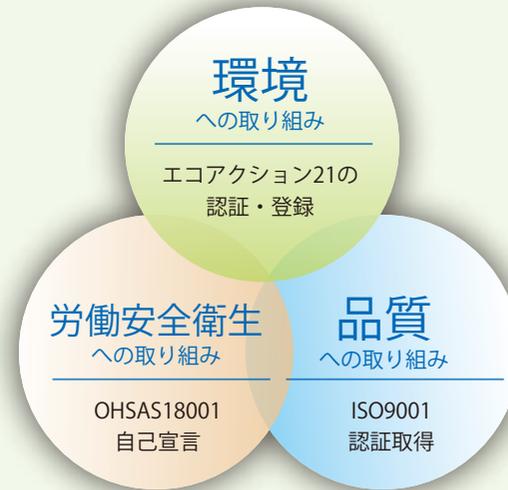


高圧化学工業株式会社

〒551-0023
大阪市大正区鶴町5丁目1番12号
Tel 06-6552-0151 Fax 06-6551-0019



電子材料用素材を中心としたファインケミカル製品の製造に好適なクリーンな環境を実現した設備を有しています。



会社概要 (平成21年3月31日現在)

商号 荒川化学工業株式会社
創業 明治9年(1876年)
設立 昭和6年1月(1931年)
資本金 31億2,830万円
グループ従業員 1,218名
主な事業内容 次の製品の製造および販売
製紙用薬品、印刷インキ用樹脂、塗料用樹脂、
合成ゴム重合用乳化剤、粘着・接着剤用樹脂、
食品添加物用樹脂、電子材料用樹脂、
精密部品洗浄システムおよびその関連機器
ホームページアドレス <http://www.arakawachem.co.jp>

役員 (平成21年6月19日現在)

代表取締役社長	末村長弘
常務取締役	中尾光良
取締役	松本圭三
取締役	三谷育洋
取締役	河村敏嗣
取締役	谷奥勝三
取締役	眞鍋好輝
取締役	延廣徹
取締役	荒川壽正
監査役(常勤)	山中勝之
監査役(常勤)	蒔田宗治
監査役	岩城本臣
監査役	中西隆夫

(注) 監査役岩城本臣および中西隆夫の両氏は、社外監査役であります。

株式の状況 (平成21年3月31日現在)

発行可能株式総数	52,800,000株	
発行済株式の総数	20,150,400株	
株主数	3,471名	
大株主		
株主名	持株数	出資比率
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口)	1,289千株	6.40%
日本マスタートラスト 信託銀行株式会社(信託口)	1,046	5.20
荒川化学従業員持株会	989	4.91
株式会社三菱東京UFJ銀行	940	4.67
荒川壽正	914	4.54
荒川彦二	420	2.09
三菱化学株式会社	406	2.02
株式会社みずほ銀行	397	1.97
資産管理サービス信託銀行 株式会社(信託口)	396	1.97
株式会社三井住友銀行	396	1.97

グループ会社の状況 (平成21年3月31日現在)

会社名	資本金	議決権比率
南通荒川化学工業有限公司	5,500千ドル	100%
梧州荒川化学工業有限公司	3,500千ドル	100%
ペルノックス株式会社	60百万円	100%
高圧化学工業株式会社	60百万円	100%
広西荒川化学工業有限公司	12,000千ドル	80%
台湾荒川化学工業股份有限公司	149,226千新台幣元	60%
ARAKAWA CHEMICAL(USA) INC.	1,400千ドル	100%
カクタマサービス株式会社	100百万円	100%
HONG KONG ARAKAWA CHEMICAL LTD.	4,000千ドル	60%
廈門荒川化学工業有限公司	5,603千ドル	間接60%
ARAKAWA CHEMICAL(THAILAND)LTD.	119,000千タイバツ	50%
ARAKAWA Europe GmbH	52千ユーロ	40%
広西梧州荒川化学工業有限公司	6,000千ドル	100%

(注) 広西梧州荒川化学工業有限公司は、平成20年12月17日に設立いたしました。

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで		
定時株主総会	6月中		
基準日	定時株主総会	3月31日	
	剰余金の配当	期末	3月31日
		中間	9月30日
公告方法	日本経済新聞		
株主名簿管理人 特別口座の口座管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社		
同連絡先 (お問い合わせ先)	大阪市北区堂島浜1丁目1番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 電話 0120-094-777 (通話料無料)		

(ご注意)

- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国本支店でもお取次ぎいたします。

荒川化学工業株式会社

大阪市中央区平野町1丁目3番7号 〒541-0046
電話 06-6209-8500(代表)



地球に優しい大豆インクと再生紙を使用しております。
この SOY INK マークは米国大豆協会承認マークです。